

2015年度 秋学期
同志社大学 文化情報学研究科
共通シンポジウム開催のお知らせ

下記の要領で2015年度秋学期文化情報学研究科共通シンポジウムを言語データ科学コース主催で実施いたします。万障お繰り合わせの上ご出席下さい。

2015年度 言語データ科学コース代表
文化情報学研究科 准教授 伊藤 紀子

[開催概要]

日時：11月11日（水） 14：55～18：10

場所：同志社大学 京田辺校地 夢告館203教室（MK203）

14：55～15：00

開会の挨拶：山内 信幸 教授

15：00～16：25

司会：星 英仁 准教授

発表：沈 力 教授

「言葉を比較する楽しさー結果構文を中心にー」

16：40～18：10

司会：沈 力 教授

講演：窪菌 晴夫 先生（国立国語研究所 理論・構造研究系 研究系長・教授）

「日本語の方言と一般言語学」

18：10～18：15

閉会の挨拶：山内 信幸 教授

[発表概要]

言葉を比較する楽しさー結果構文を中心にー 沈 力

意味論から見れば、“コーザルチェーン(Causal Chain)”は複数の述語によって組み立てられた複雑述語構造である。このような複雑述語構造は自然言語において如何に表現されているのかが注目される。本研究では、英語・日本語・中国語という形態論的に異なるタイプの言語を比較することにより、“コーザルチェーン”の表現手段が異なるものの、表現戦略は同様であるということを提案する。表現手段とは、どの言語でも形態類型論的制約を受けているので、日本語のような形態的に複雑な言語は造語法を利用するが、中国語のような形態的に簡単な言語は統語法を利用することである。これに対し、表現戦略とは、どの言語でも音声生成の戦略と同様に、一次的構成と二次的構成に分けて表現する戦略である。一次的構成とは「動作＋終結」という基本構成であるのに対して、二次的構成とは、手段や様態から、「動作＋終結」という基本構成をさらに修飾するという派生的構成である。

本提案により、世界中の多くの言語、例えば、タイ語・インドネシア語・朝鮮語などのような結果構文の構成が説明できることが期待される。

[講演概要]

日本語の方言と一般言語学 窪 蘭 晴夫

日本語の特徴の一つが方言の多様性である。本講演ではまず序論として、音声や文法、語法、意味の各領域において日本語の方言がどのような多様性を見せるか、その多様性によって、日常のコミュニケーションにどのような問題が生じるか紹介する。次いで本論として、日本語の多様性が一般言語学や他の言語の研究にどのような洞察を与えるか、また逆に一般言語学が日本語（方言）の研究にどのような新しい知見をもたらすかを考察する。前者の例として、/ai/と/au/が示す非対称性とアクセント体系の多様性を取り上げる。後者の例として、ラテン語アクセントと日本語（標準語）アクセントの類似性と、超重音節（3モーラ音節）を避けようとする諸現象を分析する。全体として、日常生活で観察される言語現象が言語の理論的な研究と密接に関連していることを論じたい。